

指宿市地域公共交通基本計画に対する意見と  
それに対する市の考え方

指宿市公共交通基本計画の基本骨格について

番号	意見	意見に対する市の回答
1	<p>指宿市の公共交通機関を維持していくことは、交通弱者や観光客の移動手段を確保するために重要である。また、公共交通を維持することは地域の活力を維持することにつながると考える。</p> <p>ただ、将来的な財政負担を考えると、人口が減少することを考慮し、独立採算で自立する公共交通機関であることが望ましい。</p> <p>指宿の地図を見ると、国道 226 号が重要な幹線道路となっているので、これを県道岩本・開聞線を使った循環線を構築し、20 分間隔ぐらいで上・下線が走るようなバス路線を 1 系統と、小牧の道の駅と山川の支所を往復する路線の 2 系統を作り、この 2 路線を維持していくのが望ましいと考える。</p>	<p>ご指摘の通り、国道 226 号及び県道岩本・開聞線については、本市の重要な幹線道路であり、そちらを運行する路線バスの重要性について認識をしております。</p> <p>また、鹿児島交通の路線バスは、鹿児島ー山川棧橋間を 1 日 7 往復運行しております。現在指宿駅から長崎鼻や池田湖を経由し、途中で乗り換えれば市内を 1 周可能な路線も構築され、多くの観光客に利用されております。</p> <p>本計画においては、現在運行されているこれらの路線バスを活用し、イッシーバスとの重複を解消して、利便性と効率性の向上を図りたいと考えております。加えて、需要の少ない地域には、デマンド交通を導入することで効率的な運行と利便性の維持を図っていきたいと考えております。</p> <p>人口減少に伴う公共交通機関の維持はご指摘の通り厳しさを増し、最近では他地域で乗務員不足のため路線バスの運行が困難になる事例も出ております。</p> <p>市では、重複路線の解消やデマンド交通の導入によって、バス乗務員不足に配慮し、公共交通事業における生産性・採算性の向上を図ることで、将来にわたって持続可能な地域公共交通体系の構築が実現できると考えております。</p> <p>ご理解のほどよろしく願いいたします。</p>